

展 望

J Aの進むべき道



J Aグループ人づくりビジョン運動について

これまでの経過

J Aグループでは、平成25年度から『次代へつなぐ協同』を担うJ A人づくり」全国運動方針（略称：「J Aグループ人づくりビジョン」運動）を展開し、現在、平成28年度からの第2次運動に取り組んでいるところです。

人づくりビジョン運動は、J A理念とそれを実現する経営戦略に基づき実践するものであり、各J Aで経営戦略を実現する人材を育成するための「人材育成基本方針」を策定し、①人事制度の確立と適切な運用、②計画的な教育研修、③活力ある職場づくりの3つを総合的・有機的に連携して人材育成に取り組むこととしています。

また、①「J Aが主体」、②「仕事を通じて自ら学ぶ」、③「継続的改善」を人材育成の基本的考え方として位置付け取り組みを進めてきました。

すでに6割以上のJ Aで、運動の起点となる人材育成基本方針の策定がなされていますが、その内容と実践を通じた人材育成の手応えを実感できているかが肝心だと思われま

今後の取り組み

第28回J A全国大会決議の人材育成部門の実践具体策として「第3次J Aグループ人づく



石堂真弘

(J A全中常務理事)

りビジョン運動」の検討を進めておりますが、これまでの①「J Aが主体」、②「自ら学ぶ」、③「継続的改善」という基本的考え方や人事制度、教育研修、職場づくりの三位一体となった取り組みは継承した上で、大きく変化するJ Aを取り巻く情勢に対応した、組合員、役職員の人材育成、教育・学習活動

の強化が必要不可欠と考えます。

具体的な重点課題としては、①J Aの主役である組合員のアクティブ・メンバーシップ確立に向けた組合員学習・教育文化活動の強化、②そのための協同組合運動者としての職員教育の強化、③働き方改革への対応と活力ある職場づくり、④中央会・連合会におけるJ Aの取り組みへの支援体制の強化が挙げられます。

また、アクティブ・メンバーシップ強化の観点から、人材育成の基本的考え方に、「組合員と職員の学び合い」、さらには組合員の「学びと実践」（加入→理念共有→組織活動参加・事業利用→意思反映→運営参画）を加えたいと考えています。

人材育成は、永遠の課題ではありますが、「創造的自己改革の実践」のためにも、各J Aでの主体的な取り組みを改めてお願いいたします。